

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0810
施設名	中神保育園
施設所在地	東京都昭島市朝日町5-4-17
法人名	社会福祉法人多摩育児会中神保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

友だちと協力して一つのを完成させる

<テーマの設定理由>

もうすぐ「お楽しみ会」という話をすると、昨年年長児が発表していた「冰山ルリの大航海」の絵本を手取る姿が見られる。「何の役をやろうかな?」「ルリをやりたい」という友だち同士の会話が聞かれ始めた。絵本を通して、自分で決めたことをやりきる気持ちや応援する友だちとの関りや環境について学んでほしい。

2. 活動スケジュール

- ・「冰山ルリの大航海」の読み聞かせを行う
- ・プロジェクターを使って、絵本のページに合わせて読み聞かせを行う
- ・どんな動物が出てくるか、ペープサート等を使い、登場する動物を教え合う
- ・興味を持った役になって表現する
- ・台本を読み合う
- ・舞台上で表現をする
- ・振り返り

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・図鑑、地球儀、ペープサート、台本の準備
- ・役について、役割や話の中のどんな場面で出てくるのか、絵本を提供しながら一緒に考えられるように、準備と見守りを行った。
- ・役名のパネルを作って、何役をやっているのか自覚できるように準備を行った。
- ・音楽や舞台の小道具を準備しながら、子どもたちが考えられるように環境を整えた。
- ・絵本が子どもたちの姿によって立体的に表現できる演出が出来るように準備し、声を聞き取りながら進めた。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・ペープサートを持ちながら、動物の名前を知ろうとしたり、どの場面に出てくる動物なのか友だちと教え合う姿があった。また、友だちとの遊びや読み聞かせの時に、自分で何をやりたいか関心を持っていた。
- ・自分でやりたい役を友だち通しで話し合い、一緒に動き方を考えて、発表した。
- ・台本を渡すと、一緒に読み合ったりする姿が見られ、出てくるシーンなど、自分たちで考えて絵本の場面に合わせた動きをしたり、台本を全部覚えている子もいた。
- ・毎日練習を進めることで、日々子どもたち同士で動きを考えてより一層話の内容を理解している姿が見られるようになってきた。「今日もやる?」「ここはどうしよう?」と友だち同士だけではなく、保育者にも「こうしたい」「ここはどうしたらいいと思う?」と言う姿があった。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・最初は自分の考えを言葉に出来ず、お友だちの真似をしたり、言えなかった子どももいたが、職員が考えている事を言葉にするまで待ったり、少しヒントをあげながら少人数で時間をかけて関わった事で自分の意見を言葉にする事ができるようになってきた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

絵本をもとに劇あそびを行ったことで、子どもたちは物語の内容をより深く理解し、登場人物の気持ちや行動を自分なりに考えながら表現しようとする姿が見られた。絵本を読んだだけのときよりも、実際に体を動かして演じることで物語の流れがつかみやすくなり、子どもたちの興味や意欲も高まっていた。また、役決めや場面の相談を通して、友達同士で「どうする?」「こうしたい」と気持ちを伝え合う姿が増え、協力しながら活動に取り組む姿勢が育っていった。自分の思い通りにならない場面でも、相手の意見を聞こうとしたり、譲り合ったりする姿が見られ、社会的な関わりへの広がりを感じた。さらに、セリフや動きを自分で考える場面では、子どもたちの想像力や表現したい気持ちが引き出され、絵本の世界を自由に楽しもうとする意欲が高まっていた。絵本から劇あそびへと活動を発展させることは、表現力だけでなく、友達との関わりや主体的に参加する姿を育む良い経験になったと考える。